

有機農産物の
日本農林規格に適合した殺菌剤

農林水産省登録
第19687号

サンケイ **ジーファイブ**®水和剤

有効成分：炭酸水素ナトリウム…46.0% 無水硫酸銅…30.0%（銅として12.0%）
人畜毒性：普通物（毒劇物に該当しないものを指している通称）

IPM適合
植物保護剤

葉かび病、すすかび病、
うどんこ病、白さび病、
軟腐病に優れた効果。
**EBI剤耐性うどんこ病菌に
も安定した効果を
発揮します。**

近年
問題となっている
かんしょ基腐病
にも有効!!



かんしょ基腐病



いちごうどんこ病



トマトうどんこ病



トマト葉かび病



トマトすすかび病



トマト疫病



きゅうりうどんこ病



なすうどんこ病



メロンうどんこ病



すいかうどんこ病



かぼちゃうどんこ病



ピーマンうどんこ病



きゅうり灰色かび病



パセリうどんこ病



さといも疫病



チンゲンサイ白さび病



レタス軟腐病



ばれいしょ軟腐病



西洋なし輪紋病



かんきつかいよう病

特長

1. 各種作物のうどんこ病に優れた予防効果と治療効果があります。
2. レタスの軟腐病や腐敗病、パセリの軟腐病など防除困難な細菌性病害に予防散布で安定した効果があります。
3. 「植物保健薬」として、殺菌作用ばかりでなく、作物の栄養にもなる画期的な薬剤です。
4. 特異な作用機作から耐性がつきにくいと考えられます。
また、EBI剤耐性菌にも安定した効果を発揮します。
5. 収穫前日まで使用できますので、毎日収穫する果菜類の殺菌剤として使いやすい薬剤です。
6. ミツバチに対する安全性が高く、訪花活動への影響も認められていません。
7. 本剤は、有機農産物のJAS(日本農林規格)に適合した薬剤です。

■適用病害と使用方法

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	10a当り散布量(ℓ)	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
野菜類 (なすを除く)	白さび病 軟腐病	1,000	150~500	収穫前日まで	—	散布
	うどんこ病 斑点細菌病	750~1,500				
きゅうり	灰色かび病 褐斑病	1,000				
	疫病 葉かび病 すすかび病	800				
トマト ミニトマト	斑点病	1,000				
ピーマン	うどんこ病	1,000~2,000				
なす	黒枯病	1,000				
レタス 非結球レタス ばれいしょ	腐敗病	15				
さといも	疫病	15				
かんしょ	基腐病	1,000				
こんにゃく	葉枯病	500				
ごま	うどんこ病 斑点細菌病	1,000	200~300	—	—	散布
	さび病	750~1,500	150~500			
	かいよう病	200~700	100~300			
	輪紋病	500	150~500			

上手な使い方

●たっぷり・ていねいに散布

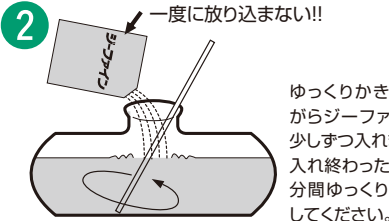
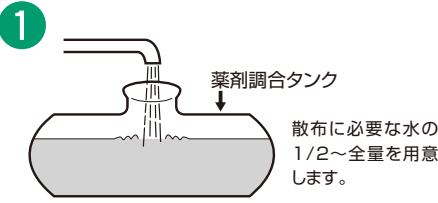
本剤は病原菌と接触することにより優れた効果を発揮します。十分な量をていねいに散布してください。

●定期散布

うどんこ病の密度が高い時は、7~10日を目安に定期散布を心がけてください。

●薬剤の溶かし方

本剤は水中に沈みにくく、また少量の水で希釈すると発泡しますので、必ず所定量の水に本剤を撈拌しながら加えるよう、散布液の調製は下記の要領で行ってください。(発生する泡は炭酸ガスですので特に危険はありません)



■使用上の注意事項

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきって下さい。
- 本剤は、水中に沈みにくいため所定量の水に少量ずつかくはんしながら加え、均一に分散させて散布液として下さい。
- 本剤は、病害の発生初期から予防的に散布して下さい。なお、多発生の場合は効果が劣ることがあるので、所定範囲の高濃度で使用して下さい。
- きゅうり、スイカ、メロンに使用する場合、薬害が生じるおそれがあるので、幼苗期の散布はさけて中期以降に散布して下さい。
- きゅうり、スイカ、メロンに使用する場合、高温時、極端な低温時及び湿潤状態が長時間続く場合の散布は、薬害の症状が激しくなることがあるのでさけて下さい。
- きゅうり、スイカ、メロンに使用する場合、連続散布は葉の周辺が黄化したり、硬化することがあるので、過度の運用をさけて下さい。
- レタスに使用する場合、高温時や結球開始以降の薬害が発生しやすい時期の散布では、炭酸カルシウム水和剤を加用して下さい。
- 非結球レタスに使用する場合、収穫後展開以降の散布は汚れを生じることがあるので注意して下さい。
- パセリに使用する場合、生育が緩慢な時期には、汚れを生じることがあるので注意して下さい。
- チンゲンサイに使用する場合、収穫後展開以降の散布は薬害を生じるので使用をさけて下さい。
- かんきつに使用する場合、薬害(スターメラノーズ)軽減のため炭酸カルシウム水和剤を加用して下さい。特に果実着生期の散布では厳禁して下さい。
- かぶ、非結球アブラナ科果菜類に使用する場合、薬害を生じるおそれがあるので注意して下さい。

- さといもに使用する場合、葉の褐変、葉先の枯れなどの薬害が生じるおそれがあるので注意して下さい。
- 西洋なしに使用する場合、葉害軽減のため炭酸カルシウム水和剤(クレフノンなど)を加用(80倍)して下さい。
- 散布量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせて調節して下さい。
- 無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意事項を守って下さい。
 - ・散布は散布機種の散布基準に従って実施して下さい。
 - ・散布に当たっては散布機種の散布基準に適合した散布装置を使用して下さい。
 - ・散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行って下さい。
 - ・散布薬液の飛散によって動植物及び自動車やカラートタンの塗装等へ影響を与えないよう散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意して下さい。
 - ・散布終了後、機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理して下さい。また使用後の空の容器を放置せず、適切に処理して下さい。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用して下さい。なお、病害虫防除等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

■安全使用上の注意

- 誤飲、誤食などのないようにして下さい。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせて下さい。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けて下さい。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないように注意して下さい。
- 散布液調製時及び散布の際は保護眼鏡、農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用して下さい。また散布液を吸い込んだり浴びたりしないよう注意し、作業後は手足、顔などを石鹸でよく洗い、うがいをするとともに洗眼して下さい。

■水産動植物への注意

- 水産動植物(魚類、甲殻類、藻類)に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用して下さい。
- 無人航空機による散布で使用の場合は、飛散しないよう特に注意して下さい。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきって下さい。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないで下さい。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理して下さい。

■保管上の注意

- 直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管して下さい。また、吸湿しやすいので開封後長期間の保存はさけて下さい。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベル記載以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届く所に置かないでください。

このチラシの記載内容は2025年2月現在のものです。